

開講 日本の伝統芸能と民俗文化財を学ぶ

～知ればもっと楽しくなる～

第2回：能楽「昭和32年・重要無形文化財指定」

講師：大阪音楽大学講師・音楽学 北見 真智子先生

日時：5月14日（水） 10:00～11:50

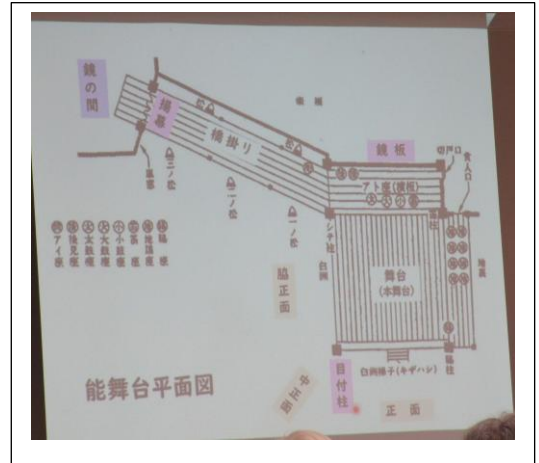
能とは…

中世の
ミュージカル

歌舞劇

古典的題材を取り上げ、
幽玄美を第一とする歌舞劇

- ✓ 謡（声乐）と囃子（器楽）にのって、舞踊的な所作でストーリーを進める。
- ✓ 屋根のある専用劇場（能楽堂）^{おもて}、面、脚本、音楽、演技に独自の様式を備える。
- ✓ 14世紀～15世紀（南北朝時代から室町時代初期）にかけて観阿弥・世阿弥父子により大成、発展し、江戸中期にほぼ様式の完成をみる。



① 舞台—能楽堂

② 能狂言を演じる人々—能楽師、演者

役籍：シテ方・ワキ方・アイ方・笛方、小鼓

太鼓、太鼓方 ③古典的題材：現行曲数は約240作品 ④構成による分類

主人公が超人間的存在が多い、二場に分かれる（複式夢幻能）／主人公が現実世界の人物

⑤面：シテが装着して演技する。（例）童子：少年の面 中將：在原業平の霊・源融役

⑥番組構成上の分類 五番立：・世阿弥の頃より、一日のプログラム構成を能の曲趣と結び

付けて考えられた。・後生、翁に次いで能5番とその間に狂言を演じるのが正式とされるよ

うになる。⑦能の音楽・・・謡：コトバは演劇におけるセリフに近いもの フシは音楽的な抑揚をもつ旋律やリズムなどの音楽的な魅力を発揮する。ドラマを表現する。

⑧幽玄美とは：もうろうとした中から浮かび上がる美しさ、想像をかきたてる何か

